

## 学生が新たなビジネスを創出！ 京阪神の大学生が イノベーションの発想を競う

大学生が考案したベンチャー事業をイノベーション実現可能性の観点から審査する「京阪神学生ビジネスコンテスト2015」を大阪市北区のグランフロント大阪で開催する。

同コンテストは、関学大や同志社大、関西大、龍谷大が連携して実行委員会を組む、京阪神の大学、大阪市、産業界が連携し、新たな関西の起業文化の創出やイノベーションの発想を持つ人材を育成することを目的に開催する。京阪神の大学等が主催したビジネスプランコンテストの上位入賞者が出場し、各々のプランを発表して最優秀賞を競う。

今年は、関学大から2名、同志社大から1名、奈良先端科学技術大学院大から1名、近畿大から1名、神戸学院大から1名が出場する。

学生によるプラン発表と併せて、さくらインターネット株式会社の田中邦裕代表取締役(予定)による基調講演、クックパッド株式会社Holiday事業室の友巻憲史郎室長による特別講演も行われる。

※一般参加可、無料、申し込み不要

### 【京阪神学生ビジネスプランコンテスト2015】

■日時:2月19日(木) 15:00~18:00

■場所:グランフロント大阪 北館7階  
大阪イノベーションハブ(大阪市北区大深町3番1号)

■スケジュール:

15:00~15:25 基調講演

さくらインターネット株式会社 代表取締役社長 田中邦裕氏(予定)

15:30~17:15 プラン発表

17:15~17:45 審査、特別講演

クックパッド株式会社Holiday事務室 室長 友巻憲史郎氏

■問い合わせ:関西学院大学研究推進社会連携機構  
(0798・54・6890)

## 被災した東北のペット の現状を知って！

～前田成美さん(人間福祉学部2年生)さん～



人間福祉学部2年生の前田成美さんは一昨年の夏から現在まで、宮城県仙台市青葉区にある「一般社団法人日本動物支援協会 JASA」で、被災した犬・猫の保護および世話をしている。一番大変なのは散歩で、朝早くから夜の9時30分頃まで、1日3回、1頭15分~20分ぐらいの散歩を数度繰り返す、なかなか体力勝負の活動だ。

東日本大震災が起きた時、前田さんは高校2年生だった。被災状況をテレビで見るにつれ、現地でボランティア活動をしたいという気持ちに駆られたが、安全面を心配する両親から反対され、断念。関学入学後、「あの時現地に行けなかったけれど、やっぱり被災地で何かをしたい」と感じ、「関西学院ヒューマンサービスセンター 共働プラットホーム」に入部し、東北への支援活動に参加した。

当初は農地の復旧支援をしていたが、ヒューマンサービスセンターのボランティアコーディネーターを通じて JASA を知り、活動に参加。避難生活でやむなくペットを手放す被災者が予想以上に多いこと、ペットも人間不信に陥ったり、引き取られないまま死んでしまったりしていることを知り、「東北のペットの現状」を多くの人に知ってもらいたいと強く感じるようになった。

「私が活動に初めて参加した一昨年の夏は、JASAの犬用シェルターは3つあり、保護していた犬は60数頭いましたが、今、シェルター数は1つに減り、犬の数も13頭に減りました。さらに里親が決定している犬もいます。一緒に散歩に行けなくなるのは少し寂しいですが、本当に嬉しいです」と前田さん。

この活動で得たのは、東北との心の近さだと言う。「活動するまで私は近畿より東側に行ったことすらありませんでした。東北は縁も所縁も無かった場所ですが、今ではさまざまな人の温かさに触れ、また帰りたくなるような場所になっています」と話している。



犬の世話をしている前田さん(右側)